

(北 上)

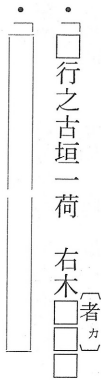
胆沢城跡は、築地および内外の溝により方約六七五mに外郭が画され、南北中軸線上の南から三分の一に、柱列によって方約八九mに区画される政庁域が位置している。政庁域の発掘調査は、これまでに、正殿、南辺区画東半および東辺区画で実施され、三期変遷の区画施設と六期変遷の正殿が判明している。第四九次調査は、この政庁北辺区画施設中央部の構造を解明す

## 岩手・胆沢城跡

- 1 所在地 岩手県水沢市佐倉川
- 2 調査期間 一九八五年(昭60)五月～九月
- 3 発掘機関 水沢市教育委員会
- 4 調査担当者 伊藤博幸・佐久間賢・土沼章一
- 5 遺跡の種類 古代城柵跡
- 6 遺跡の年代 九世紀初頭～一〇世紀前半
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

る目的で実施した。調査の結果、北辺区画の柱列とほぼ棟通りを一致させる梁行二間の六期に変遷する東西棟が検出された。第一期の建物は桁行一三間で南中央が開口する。第三期以降は東西の非対称建物によって構成され、西棟には南廂が付く。また、第五・六期には、東西棟間に櫓門的施設が付加される。また、北辺区画柱列の外側には幅二・一～三・五m、深さ〇・五～〇・九mの溝が位置する。木簡は、上記建物北側の溝から出土した。この地区の溝では二度の改修がみられ、土留め杭により南岸を補修した二期目の溝底から木簡が発見され、相伴遺物および層位関係から、九世紀中葉前後に投棄されたと解される。なお、政庁域北東には、官衙地区(北方官衙)の存在が確認されており、その南を限ると解される東西方向の柱列および溝跡が政庁区画北辺と約一三mの間隔をおいて位置している。

### (1) 行の古垣一荷



238 × 19 × 6 065

下端に逆V字状の切り込みが見られ、二次的転用の可能性をもつ。裏面は縦方向に板面がはじけ、文字の判読が出来ない。なお、釈文



は平川南氏の解説に依った。

9 関係文献

水沢市教育委員会『昭和六〇年度胆沢城跡発掘調査概報』（一九八六年）  
(佐久間 賢)

